



# 小暮ひろし市議会報告

新政佐野 小暮博志

〒327-0824 佐野市馬門町1597番地  
TEL・FAX 0283-23-8263  
E-mail kogurehi@sctv.jp

紙面

議員生活1年を振り返って  
高齢者保健推進委員会 (1月13日)  
第5回 佐野市社会福祉大会 (1月27日)

平成22年第1回 広域消防組合定例議会 (2月3日)  
平成22年第1回 国民健康保険運営協議会 (2月10日)  
平成22年第1回 2月定例議会 (2月26日~3月24日)

## 議員生活1年を振り返って

安全で住みよい街づくりを目指して頑張りますので、今後とも、ご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。この議会報告も、第4号となりました。今後とも、定例議会の後に発行しますので、ご愛読お願い申し上げます。

## 高齢者保健推進委員会 (1月13日)

この委員会には、厚生常任副委員長の立場で出席。佐野市の高齢者人口は29,327人と、総人口の23.4%になっています。(21年10月現在) 佐野市では健康づくり支援事業、介護サービスや高齢者福祉サービスの計画を立てて進めています。高齢者福祉サービスをみますと、40種ほどの事業があり、予算も4.2億円ほどかけております。必要なサービスを、有効に利用するとよいと思います。下に示すように、多くのサービス事業があります。特に、高齢者ふれあいサロン事業の参加者は、楽しく地域の方々と接触ができるので、ここ3年で1.4倍に増えていきます。

- ・敬老祝金贈呈
- ・高齢者生きがい工房
- ・敬老列車参加者支援
- ・老人クラブ支援
- ・高齢者福祉タクシー券給付
- ・老人ホーム入所処置
- ・高齢者軽度生活支援
- ・高齢者の自立支援
- ・高齢者補聴器給付
- ・高齢者緊急通報装置貸付
- ・高齢者火災警報器給付
- ・徘徊高齢者位置探索機貸与 等
- ・高齢者ふれあいサロン
- ・リフレッシュシルバーエイジ演芸大会
- ・高齢者はり・きゅう・マッサージ等施術支援
- ・高齢者ふれあいパスポート交付
- ・高齢者外出支援
- ・高齢者居室整備資金貸付
- ・高齢者寝具洗濯
- ・高齢者福祉電話貸付
- ・高齢者乳酸飲料愛のひと声
- ・在宅介護者介護手当支給

## 第5回 佐野市社会福祉大会 (1月27日)

社会福祉大会が、田沼中央公民館大ホールで行われ、表彰式、大会宣言等のあと講演会が実施されました。表彰式では、自立更生者、ねたきり高齢者・重度心身障害看護模範介護者や永年勤続者の表彰が行われました。

大会宣言として、『だれもがふれあい、支えあう豊かな地域社会』の実現に努めることを採択。

社会福祉士の東島弘子さんの、『介護保険制度と“地域”』の講演がありました。

《介護を取り巻く状況》・主介護者は、同居している家族等が60%、別居している家族等が10.7%、事業者(介護保険利用)が12%。

《介護保険での利用の流れ》・市に介護認定を申請し、要介護の決定を受ける。・ケアマネージャーとサービスを決定。利用料は1割自己負担。

《介護者になった時》

- ・1人で抱え込まず、民生委員さん等に相談するとよい。
- 《本日のまとめ》
- ・介護保険制度は、3年ごとに見直しがあります。『手引き』を入手しておくといよい。

## 第1回 広域消防組合定例議会(2月3日)

21年度補正予算、22年度予算等が示され、いずれも可決されました。

21年度補正予算は、前年の繰越金が約5億4,000万円発生したので、佐野市の支出を1,500万円減額。化学消防ポンプ車が約25%(1,600万円)減額での落札による変更、財政調整資金を約4,700万円積み増して1億4,700万円にする変更等でした。また、繰越として、消防庁舎耐震補強事業の約9,260万円あるが、これは早く実行する必要があると思っています。

22年度の予算は約18億2,100万円と、21年より約2億6,600万円(17%)増える。これは、22年に北分署庁舎建設事業費約3億2,300万円が予定されているためです。

## 第1回 国民健康保険運営協議会(2月10日)

この運営協議会は、議員代表(6人)、被保険者代表、保険医代表等の委員総計17名からなり、運営事項を審議するために設置された市長の諮問機関です。

国民健康保険の主な科目費を下表に示します。

21年度と比較すると、歳入が4%減少し、保険税も9%減少している。これは、保険料が支払いできない人の増加によると思われる、との発言があった。これは、豊かな地域社会の実現から逆行しており、大問題である。

その他として、保険料の課税限度額が68万円であるが、負担額が重く感じられる。保険料アップは容易に賛成できない状態である、との意見もありました。

## 平成22年度 国民健康保険事業特別会計

	22年度	21年度	増減(%)
歳入 (百万円)	12,690	13,217	△4
保険税	3,206	3,506	△9
国庫支出金	3,267	3,698	△12
県支出金	86	645	△87
前期高齢者交付金	2,080	2,030	2
その他	4,051	3,338	21
歳出 (百万円)	12,690	13,217	△4
総務費	282	285	△1
保険給付費	8,322	8,523	△2
後期高齢者支援金	1,541	1,686	△9
その他	2,545	2,723	△7

## 第1回 2月定例議会(2月26日~3月24日)

22年度予算の大綱の説明とその質疑、22年度一般・特別会計の予算特別委員会、常任委員会での質疑及び一般質問が行われました。

22年度予算は、「住民生活の安心と安全を守るとともに地方経済を支え、地域の活性化を回復させていく」という、地域主権の基本理念に基づき、作成されました。

22年度一般・特別会計の歳出を21年度予算、21年決算見込額と比較すると、下表の如くなります。

21年予算比で見ると、総額で僅か約1%の減額である。普通建設事業費は、田沼インターチェンジ付近の道路整備が一段落して65.4%と大きく減少している。

21年8月の衆議院選挙で政権が代り、コンクリートから人への転換もあり、21年見込比で見ると予算の変化が顕著に表れている。歳出総額では約10%(約71億円)も減少しており、22年度は、佐野市予算による経済活性は厳しくなると思われる。

### 平成22年度 一般・特別会計予算歳出状況

	22年度	21年予算比 (%)	21年見込比 (%)
一般会計 歳出(百万円)	40,970	98.9	88.0
人件費	8,857	98.7	97.7
物件費	5,411	102.1	102.9
扶助費	7,359	110.6	120.5
普通建設事業費	2,382	65.4	44.3
公債費	5,272	95.4	95.4
その他	11,685	93.0	76.8
特別会計 歳出(百万円)	25,695	97.8	94.6
国民健康保険(事業)	12,690	96.0	92.2
国民健康保険(直営)	305	84.7	89.7
公共下水道	3,108	84.2	91.1
老人保健	1	2.7	1.6
農業集落排水	163	81.9	81.9
自家用有償バス	143	98.3	98.1
介護保険	8,125	102.6	99.0
後期高齢者支援金	1,159	106.0	106.5
合計(百万円)	66,665	98.5	90.4

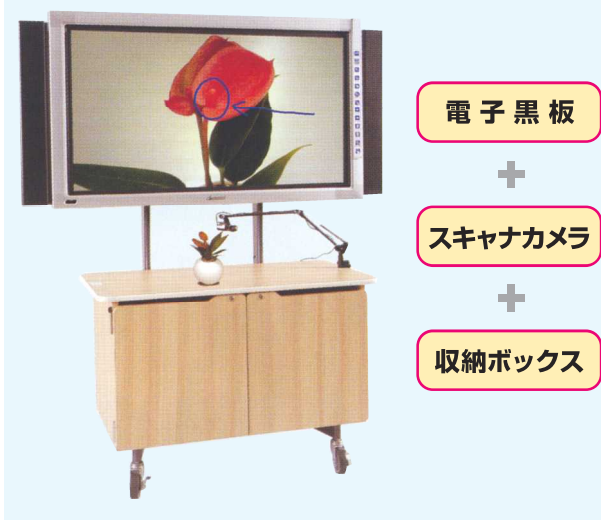
21年度の一般会計の補正予算議案で、地域経済活性化の補助金があり、小中学校にパソコン1,797台と電子黒板99台導入する件がありました。

パソコンは5社で落札され、予定価格1億2,133万円に対し、平均落札率60.87%でした。電子黒板は1社が落札し、予定価格8,144万円に対し、落札率99.55%でした。

電子黒板の高い落札率に対し、多くの質問と苦言が出されました。今回の入札は、取り分け方式による一般競争入札で、入札した販売店は次の入札に参加しない方式で、多くの販売点に落札させる方式です。問題点として、6件の案件に対して6社しか入札に参加していませんでした。そして、電子黒板の入札が最後に行われていました。

カメラ付き電子黒板は、以前に11台購入実績があり、1台当たり721,350円で、落札率は91.84%でした。今回は、これに収納ボックスが追加され、講習料も3年(今回は1年)付いていて、1台当たり819,000円で、落札率は99.55%になりました。

質疑の後、賛成多数で電子黒板購入の議案は可決。私も、前回に落札されたカメラ付き電子黒板の売価が基準にあり、プラスされた分の価格を勘案して妥当と理解し、賛成しました。



### \*\*\* 小暮ひろしの一般質問 \*\*\*

#### 1 市窓口サービス時間の変更について

21年の12月定例議会で、4月1日から国家公務員と同じく1日8時間勤務が7時間45分勤務となり、終了時間が5時30分から5時15分と早まることになりました。

他の市では、窓口サービス時間をどの様にしているか調べてみました。隣の足利市や栃木市、小山市、宇都宮市では、窓口を毎日午後7時まで開設しておりました。

佐野市の場合、水曜日と金曜日しか窓口サービスを午後7時まで行わない理由を質問致しました。

(答弁) 佐野市は、他の市より多くの窓口で時間延長をしており、週2回の時間延長で様子をみていきたいとのことでした。

#### 2 焼却炉の運営管理について

みかもクリーンセンターは、平成19年に完成し、3年の保証期間を終了して、22年4月より、新たな保守契約を結んで運転することになっている。そして、22年の一般会計に、事業費約8.68億円が計上されています。

私達の新政佐野会派メンバーは、佐野市と同じ焼却炉の維持管理をしている2市の視察に行きました。(2月4日~5日)

中津川市は、運転管理・保守管理業務を、随意的の単年契約していました。理由は、『プラントメーカーによる継続した運転は、施設の安全・安定・安価稼働と性能保証という観点から、設計上の瑕疵か整備上の瑕疵かの判定の必要なく、その全ての責任と改善をプラントメーカーに任せ、瑕疵期間終了後となる3年目以降であっても設計上の瑕疵については、プラントメーカーの責任において施設の改善をさせることができると考えているため。』とのことでした。事業費は5.57億円でした。

桜井市は、運転・整備契約として、プラント製作メーカーと14年8ヶ月の長期随意契約をしていました。理由は、施設の安定・安全稼働、ノウハウを熟知、高度な技術への対応が可能、故障等の責任の所在が簡潔・明確で円滑に対応可能、予算組がし易くなることでした。

契約費用は、年間約9.9億円の見積り額を外部の委員会で検討等をし、約6.58億円に下げて契約を結んでいました。

次に、私個人としても、6市の維持管理状況を調査したところ、1市を除き、5市が単年契約でした。維持管理費は、特別な1市を除き、平均で約6.4億円でした。

佐野市の管理委託事業費約8.68億円は、他と比較して高く思われたので、見解を質問しました。

(答弁) 今後、低減検討を進めていくとのことでした。